

学生の確保の見通し等を記載した書類

令和2年4月

群馬大学情報学部

目 次

(1) 学生確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・	3
① 定員充足の見込み	
② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	
(2) 学生納付金の設定の考え方・・・・・・・・	4
(3) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況・・・・・・・・	4
① オープンキャンパス	
② 高校との意見交換等	
③ 高校訪問	
④ ホームページやパンフレット等による広報	
(4) 人材需要の動向等社会の要請・・・・・・・・	6
① 人材の養成に関する社会的背景	
② 人材の養成に関する社会的要請	
(5) 資料・・・・・・・・・・・・・・・・	9

(1) 学生確保の見通し

① 定員充足の見込み

情報学部の学生定員の設定にあたっては、学内における学生定員の再配分により大学全体の学生定員を増減させないことを前提とし、社会情報学部 100 名と理工学部電子情報理工学科情報科学コース 70 名を統合し、170 名としている。

基盤となる学部等である社会情報学部では過去 5 年平均では 4.5 倍の志願倍率であり、理工学部電子情報理工学科では、3.0 倍の志願者となっている。(資料 1)

今回、社会情報学部、理工学部への志願者の多い群馬県内の公立高校上位校を中心とした 24 校にニーズ調査を実施した。

調査対象校の高校 2 年生 5,480 名のうち 3,094 名 (56.4%) を対象とし、2,343 (75.8%) の有効回答を得た。有効回答者 2,343 名中、476 名 (20.3%) が情報学部を受験し、合格した場合入学するとの回答で、入学定員の 2.8 倍であった。さらに県外等の高校からの入学も見込めるため、170 名の入学定員を十分に確保できると考えている。

また、情報系学部における全国的な状況としては、類似学部として静岡大学情報学部 (平成 7 年 4 月開設)、名古屋大学情報学部 (平成 29 年 4 月開設)、広島大学情報科学部 (平成 30 年 4 月開設) があり、また滋賀大学データサイエンス学部 (平成 29 年 4 月開設) 及び横浜市立大学データサイエンス学部 (平成 30 年 4 月開設) がある。さらに、直近では、長崎大学情報データ科学部 (令和 2 年 4 月開設)、福知山公立大学情報学部 (令和 2 年 4 月開設)、兵庫県立大学社会情報科学部 (平成 31 年 4 月開設) がある。令和元年度一般入試 (前期) の受験倍率は静岡大学 3.7 倍、名古屋大学 2.9 倍、広島大学 2.9 倍、滋賀大学 3.8 倍と、いずれも 3 倍前後のニーズがあり、全国的にも需要があることが伺える。

本学の所在する群馬県には、経済学部・経営学部の存在はあるが情報学部は存在しないため、地方における Society5.0 を迎えた社会のリーダーを育成する上では、地域の期待も大きく、十分な需要が見込めると考えている。

学生定員 170 名の教育体制については、情報学部情報学科の 1 学科 (4 プログラム) として設置するため、原則としてプログラムごとの学生定員の設定は行わないが、学生には 1 年次の学部基盤教育の後、2 年次に所属プログラムを選択させる。教員 48 名 (教授 18 名、准教授 24 名、講師 1 名、助教 5 名) で、4 プログラム (人文情報プログラム、社会共創プログラム、データサイエンスプログラム、計算機科学プログラム) を担当することとなるが、S/T 比は 14.2 であり、基盤となる学部の社会情報学部の S/T 比 15.2 よりも厚い教育体制となる。

また、3 年次編入学定員 10 名を加えると、収容定員は 700 名となるが、S/T 比は 14.6 となる。教育の質保証の観点から見て、学生定員 170 名は適正である。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要 (資料 2)

今回実施した調査では、基礎となる学部 (社会情報学部、理工学部) における志願者数が約 4 割である群馬県の高校のうち、公立高校上位 15 校を中心とした 24 校を対象とした。高校 2 年生 5,480 名のうち 3,094 名 (56.4%) に調査を実施し、2,343 の

有効回答を得ており、有効回答率は 75.8%となる。また、有効回答数の内訳として、文系 1,088 名 (46.4%)、理系 1,226 名 (52.3%)、不明 29 名 (1.2%) であり、文理融合として中間値の調査結果である。

高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国立大学に進学」が 66.8%で最も多く、次いで「私立大学に進学」が 50.7%、「公立大学に進学」が 42.9%であった。また、興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「工学」(24.9%)、「経済・経営・商学」(22.8%)に次いで「情報学」が 22.5%と高い割合となっており、高校卒業後の希望進路及び興味のある学問系統から、本学部がターゲットとする対象に調査を実施できていると考えられる。

有効回答者 2,343 名中、「受験したい」が 533 名 (22.7%) で、そのうち「入学したい」は 476 名 (89.3%) で、受験意向と入学意向に大きな差を生じていない。また、「入学したい」の 476 名は受験した場合入学するとの回答であり、この数字は入学定員 170 名の約 2.8 倍であることから、志願倍率と受験倍率が大きく乖離することはないと考えられる。

次にプログラム毎にどの程度魅力を感じるかという希望調査であるが、「とても魅力を感じる」というプログラム毎の比率は、人文情報プログラム 9.6%、社会共創プログラム 11.2%、データサイエンスプログラム 13.8%、計算機科学プログラム 12.2%となる。さらに「ある程度魅力を感じる」までを含めると、それぞれ 50.9%、51.6%、48.6%、42.5%となり、概ね半数の学生が情報学部における各プログラムの魅力を感じていることが伺える。

想定定員と実質受験志願者中でのポジティブ回答者数を比較すると、群馬県内の限定された調査対象高校のみで、各プログラム、文系・理系別で、想定定員に対し十分な倍率が確保され、学部として 2.72 倍となる。

調査対象が限定されていたことの補正を試みると、新設する情報学部と類似した受験層の現学科（社会情報学部社会情報学科及び理工学部電子情報理工学科）への平成 31 年度入試の総志願者は 775 名（各 431 名、344 名）であり、そのうち調査対象高校からの志願者は 243 名（各 134 名、109 名）であり、31.4%となる。さらに調査対象高校の生徒 56.4%のみを調査している。したがって、志願倍率は受験層の $56.4\% \times 31.4\% = 17.7\%$ から求めた値となる。受験倍率を 5.65 倍 ($=1/0.177$) したものが、概ねの総志願倍率と見積もれることができ、新設される学部は十分な受験生が確保できると考えられる。

(2) 学生納付金の設定の考え方

本学の初年度学生納付金は、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成 16 年文部科学省令第 16 号）に定める「標準額」と同様であり、授業料年額 535,800 円、入学金 282,000 円である。近隣の国立大学法人与同一の条件である。

(3) 学生確保に向けた具体的な取り組み状況

平成 29 年度に発足した広報本部により、全学の広報とともに新学部専任教員で協力した広報を行う。情報学部の教育課程は、社会情報学部及び理工学部電子情報理工学科情報

科学コースで行われてきた教育を基盤として、人文情報、社会共創、データサイエンス、計算機科学の4つの教育プログラム（資料3）により、文系から理系まで幅広い学修領域で構成されている。また、全国の情報系学部と比較して、人文科学、社会科学に厚みを持たせた文理の幅広いスペクトルにより情報学の教育を実践する。本学部の趣旨等が明確になるよう、以下の各取組みを行う際には、本学部の特色を強調した広報を実施することで、従前から本学を志望していた学生層に対しても訴求しつつ、受験生や社会への説明を徹底する。

① オープンキャンパス

学部の広報活動の重要な柱となっている全学オープンキャンパス（OC）及び学部独自のOCへの参加状況についてみると、おおむね入学定員を大きく上回る高校生が参加している（資料4）。

OC時には、本学部教職員、学生広報大使が協働で、本学部の理念、入試制度、カリキュラム、学生生活、及び卒業後の進路等について説明を行う。OCを通して大学の理解・評価につながっており、大学での学修に対する強い期待が大きい。OCへの参加者は地理的な制約から県内の参加者が大半ではあるが、県内の本学部希望者を確保するという観点から、OCを有効に活用するとともに、県外への参加者にも広報本部を通じて積極的に推進する。

② 高校との意見交換等

高校の進路指導教員との意見交換は、入試に関する説明会の場等を利用して行っている。平成31年度の意見交換会には、77校から91名が参加し、他の学部等とも連携して積極的な学部の紹介を行っている。また、大学説明会、出張模擬授業（出前授業）、高校訪問、大学見学会を開催し、毎年多くの高校からの見学会を受け入れているが、周辺県の高校からの見学が多い。出張授業については、学部の教員全員の協力を得て、県内高校を中心に受験者の多い高校などで数多くの回数行っている（資料5）。模擬授業と同時に学部の紹介・広報も行い、志願者増につなげている。

③ 高校訪問

ニーズ調査の際、群馬県内の高等学校24校に足を運び、直接調査用紙を手渡すとともに、進路指導教員等に本学部の概要説明を行っている。設置申請後は調査の際に訪問した高校を含め、群馬県内の多くの高等学校を訪問し説明を行うとともに、県内のみならず、埼玉県、栃木県、茨城県、長野県等の高等学校にも足を運び、学部の広報に取り組む。

④ ホームページやパンフレット等による広報

本学部の設置についての情報を自ら探す主体的で優秀な学生を確保するとともに、広く一般に情報公開をすることを目的としてホームページによる広報を行う。早い段階からの学生の進路選択の参考となる情報を公開するとともに、設置認可後は本格的に情報公開を行う。また、学部独自のパンフレットも作成し、高校訪問、オープンキャンパス等で配布するとともに、本学が発行している広報誌にも本学部の情報を掲載し、学生のみならず、保護者や地域企業にも周知を図る。

(4) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する社会的背景

グローバル化は我々の社会に多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的にも変化させつつある。こうした社会的変化の影響が、身近な生活も含め社会のあらゆる領域に及んでいる中で、求められる人材像も急速に変化し、それに応じて教育の在り方も新たな事態に直面している。ビッグデータから価値を生み出すデータサイエンス教育の近年の隆盛もその表れである。しかし、日本の従来の情報教育においては、工学部や理工学部はその教育組織を置いていることから、データの社会的背景にも目を向けた、データサイエンスの基礎から応用まで学部の段階で体系的に学ばせることは行われてこなかった。

AI戦略2019（令和元年6月11日総合イノベーション戦略推進会議）においては、次のように述べられている。

「現在、私達の社会は、デジタル・トランスフォーメーションにより大転換が進んでいる。その変革の大きなきっかけの1つとなっているのが、AIであり、AIを作り、活かし、新たな社会（「多様性を内包した持続可能な社会」）の在り方や、新しい社会にふさわしい製品・サービスをデザインし、そして、新たな価値を生み出すことができる、そのような人材がますます求められている。こうした能力は、ビッグデータの収集・蓄積・分析の能力とも相まって、今後の社会や産業の活力を決定づける最大の要因の一つであるといっても過言ではない。このため、関連の人材の育成・確保は、緊急的課題であるとともに、初等中等教育、高等教育、リカレント教育、生涯教育を含めた長期的課題でもある。とりわけ、「数理・データサイエンス・AI」に関する知識・技能と、人文社会芸術系の教養をもとに、新しい社会の在り方や製品・サービスをデザインする能力が重要であり、これまでの教育方法の抜本的な改善と、STEAM教育などの新たな手法の導入・強化、さらには、実社会の課題解決的な学習を教科横断的に行うことが不可欠となる。まずは、様々な社会課題と理科・数学の関係を早い段階からしっかりと理解し、理科・数学の力で解決する思考の経験が肝要である。」

そして、具体的な目標値として、2025年までに、①データサイエンス・AIを理解し、各専門分野で応用できる人材を約25万人/年。②データサイエンス・AIを駆使してイノベーションを創出し、世界で活躍できるレベルの人材を約2千人/年、そのうちトップクラス約100人/年。③数理・データサイエンス・AIを育むリカレント教育を約100万人/年に実施。というように、大学等における教育目標を設定している。

一方では、内閣府の検討会議の報告書によると、「地球規模の環境問題やAI、ゲノム編集技術の発展など、急速に発展する先端技術の現代の課題にこたえるために、人文・社会科学が果たす役割が大きい」とし、「イノベーション戦略を立てるときから人文・社会科学が必要であり、文理融合の推進と、その基盤としての人文科学自体の持続的振興が必要」としている。

日本学術会議においても、地球規模の大規模な気候変動、人工知能やゲノム編集技術などの発展、少子・高齢化等が急速に進む現代において、社会が解決を求める様々な課題に学術が貢献するためには、人間と社会の在り方を相対化し時に批判的に考察する人文・社

会科学の特性を踏まえつつ、自然科学と人文・社会科学とが緊密に連携し、総合的な知の基盤を形成することが不可欠であることを強調している。

すなわち、21世紀は科学技術と人間社会の不調和が地球規模で発生する可能性が高く、このため理想とする社会、持続可能な社会の創出には、倫理価値観の形成とそれに基づく経済活動、生活様式の検討が必要であり、文理を融合した研究が求められている。デジタル革命やグローバル化が急速に進む中、持続可能でインクルーシブな経済社会システムである Society5.0 の実現に向けた取組が加速し、同時に持続可能な社会の実現に向けて、国際社会全体が一丸となって SDGs を達成することが求められている。

このように、本学部が育成しようとしている、数理・データサイエンス教育とあわせて、文理融合の教育により自然科学と人文・社会科学の双方に通暁する人材への期待は高い。

②人材の養成に関する社会的要請

平成31年2月時点の新情報系学部の構想に基づき、第三者機関（株式会社 進研アド）に依頼し、新学部の卒業生就職先として想定される全国の企業、及び県内の企業に650社を対象に調査を実施し、252社から回答を得た（回収率38.8%）。（資料6）

回答者の属性について人事採用の関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は40.1%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人は、44.8%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

また、アンケートでは、本学で養成しようとする「情報科学に関する深い理解に基づき、IoTや人口知能などの社会や産業など様々な分野から求められる次世代の技術を創出し応用する能力を養います。」が92.5%で最も高く、次いで「人間の営みやセンサー等が生む膨大な記録から有用なデータを構築・分析して実世界の課題を発見・解決するデータ解析の能力を養います。」が88.9%と、いずれも極めて高く、ほぼ全ての企業が、これからの社会にとって情報系新学部は必要であると評価していることが伺える。

さらに、本学部の卒業生に対する採用意向について、「採用したいと思う」と回答した企業は224件（88.9%）と予定している入学定員を上回っている。併せて、卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聴取したところ、合計は389名程度であった。平成31年2月時点と、現在の本学部における養成する人材像についての乖離はないため、安定した人材需要があると考えられる。

なお、企業アンケート時の学部名は「総合情報学部（仮称）」としていたが、ニーズ調査結果も踏まえた検討により、「情報学部（仮称）」とすることとした。

令和2年3月には、多くの本学の卒業生が地方公務員として就職を希望している群馬県から、情報系新学部の設置に関する要望書の提出があった（資料7）。県からは、国の施策に合致した人材養成を要望するとともに、令和2年度に、群馬県でもデジタル技術を活用して県内産業・県民生活・行政施策を変革していくため「デジタルトランスフォーメーション課」を、データ分析による政策の立案・検証を推進するため「データ分析・活用推進室」を新設することとなり、多様化、複雑化する様々な行政課題を、新たな手法で解決していくためにも、必要な人材の育成を要望されており、地方大学としての地域での人材養成に対し対応するべきところである。

学生の確保の見通し等を記載した書類 別紙資料

資料 1	入学志願者状況(平成 28 年度～令和 2 年度)・・・・・・・・・・	11
資料 2	ニーズ調査（高校生対象）調査結果・・・・・・・・・・	13
資料 3	プログラム概念図・・・・・・・・・・	21
資料 4	群馬大学オープンキャンパス参加等状況・・・・・・・・・・	23
資料 5	大学説明会・進学相談会等実施状況・・・・・・・・・・	25
資料 6	ニーズ調査（企業対象）調査結果・・・・・・・・・・	29
資料 7	群馬県からの要望書・・・・・・・・・・	43

入学志願者状況

	入学定員	令和2年度		平成31年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		平均	
		志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率
社会情報学部	100	549	5.5倍	431	4.3倍	449	4.5倍	442	4.4倍	385	3.9倍	451	4.5倍
理工学部電子情報理工学科	120	357	2.6倍	344	2.9倍	420	3.5倍	361	3.0倍	298	2.5倍	356	3.0倍

※理工学部電子情報理工学科の令和2年度入学定員は140名。

2020.3.1

情報学部 高等学校生ニーズ調査結果

入口のニーズ調査（高校生の進学志望）

現在、本学に多くの受験生を送り出している高等学校 24 校の高校 2 年生約 5,480 名のうち 3,094 名（56.4%）を対象とし、高等学校にフライヤーの配布を依頼し、Web アンケートを行い、2,343 の有効回答を得た。有効回答率は 75.8%となる。

まず、表 1 に受験意思と入学意思の集計を示す。有効回答者 2,343 名中、476 名（20.3%）が受験し合格した場合入学するとの回答であった。また、文理選択や数Ⅲの履修状況との関係を表 2 に示す。以下では、断らない限り、受験・入学の意思があった赤い部分の 476 名（以下では推定志願者と呼ぶ）を対象として集計を行う。

表 1 受験意思の有無と合格した場合の入学意思

	入学したいと思う	入学したいと思わない	合計
受験したい	476	57	533
受験したいと思わない	381	1,429	1,810
合計	857	1,486	2,343

表 2 文理選択と受験・入学意思

人数	文理	文系			理系			不明	合計
	数Ⅲ履修	なし	あり	不明	なし	あり	不明	-	
受験して入学する意思	なし	841	19	24	273	675	6	29	1,867
	あり	197	3	4	51	214	7	0	476
	合計	1,038	22	28	324	889	13	29	2,343
%	文理	文系			理系			不明	合計
	数Ⅲ履修	なし	あり	不明	なし	あり	不明	-	
受験して入学する意思	なし	35.9%	0.8%	1.0%	11.7%	28.8%	0.3%	1.2%	79.7%
	あり	8.4%	0.1%	0.2%	2.2%	9.1%	0.3%	0.0%	20.3%
	合計	44.3%	0.9%	1.2%	13.8%	37.9%	0.6%	1.2%	100.0%

注：“不明”は“未定”あるいは回答無しを表す。

まず、図 1 に各教育プログラムにどの程度の魅力を感じるかを問うた結果を、全有効回答者について集計した結果を示す。図 2 に、これを、本学部への推定志願者に限定した結果を示す。なお、この魅力に関する質問は教育プログラムごとに魅力の程度を問うており、例えば、一人の回答者が複数の教育プログラムに”とても魅力を感じている”という場合があり、その回答が重複して数えられている。そこで、この点を補正して集計した結果を図 3 に示す。

また、これを文理別割合に集計したものを図4に示す。

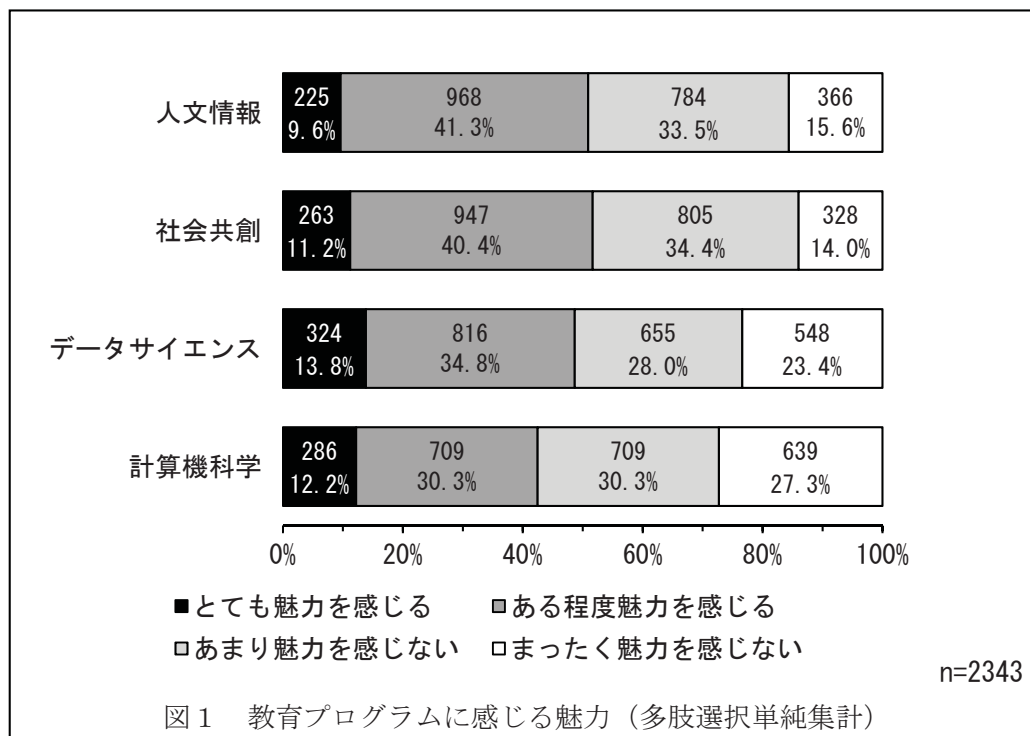
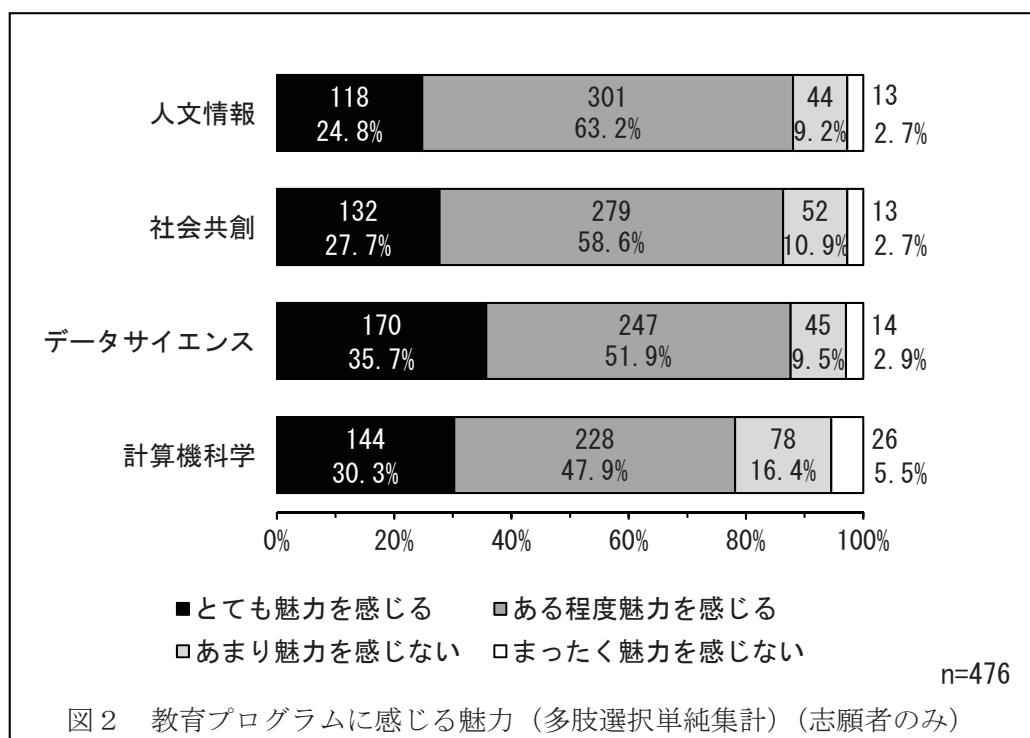
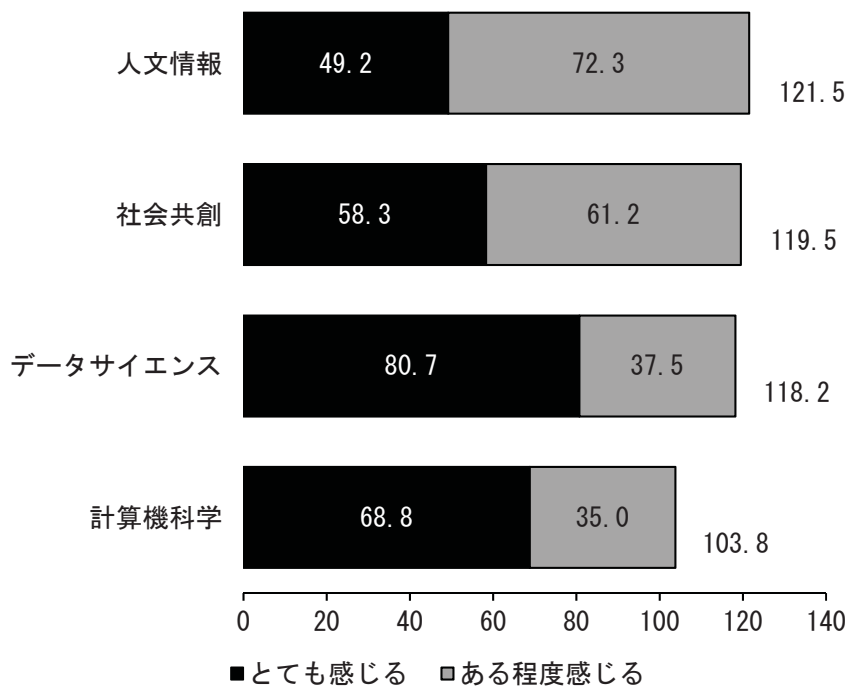


図1より、とても魅力を感じる人数の教育プログラムごとの比率は、人文情報 9.6%、社会共創 11.2%、データ科学 13.8%、計算機科学 12.2%となる。さらに、“ある程度”までを含めると、50.9%、51.6%、48.6%、42.5%となり、概ね半数程度となる。

対象者を推定志願者に限定した図2では、計算機科学で78.2%と少し低いが、概ね90%程度の者が、いずれのプログラムに対しても魅力を感じている。





補正集計方法：受験意思と入学意思がある回答者のポジティブな魅力度評価に限定して集計している。回答者ごとに、ポジティブな評価（”とても感じる”と”ある程度感じる”）を程度の区別をせず、それらの回答をその教育プログラム数分の1と評価して集計したものが、バー全体の長さとして右下の数字である。魅力を”とても感じる”との回答のみで、同様の評価を行った値が”とても感じる”の値である。

上記のポジティブな回答数を集計すると463となり、実質受験希望者476名に概ね一致する。これは、入学意向がある者は、13名を除き、いずれかの教育プログラムにポジティブな回答をしていることによる。なお、“とても感じる”の数を集計すると合計256となる。これは、いずれの教育プログラムにも、魅力を“とても感じる”とは回答しなかった回答者206名の分が減るためである。

図3 教育プログラムに感じる魅力（志望状況を考慮）

図3より、“とても魅力を感じる”のポイントは、データサイエンスが最大で、以下、計算機科学、社会共創、人文情報とつづく。範囲を”ある程度感じる”まで広げて、ポジティブな回答全体とすると、人文系のプログラムが多くなることがわかる。これから、教育プログラム間の定員想定は、概ね整合的であることがわかる。

図4を見ると、計算機科学やデータサイエンスのプログラムは、理系高校生から支持されているが、人文系のプログラムは、理系高校生からもある程度支持されていることがわかる。

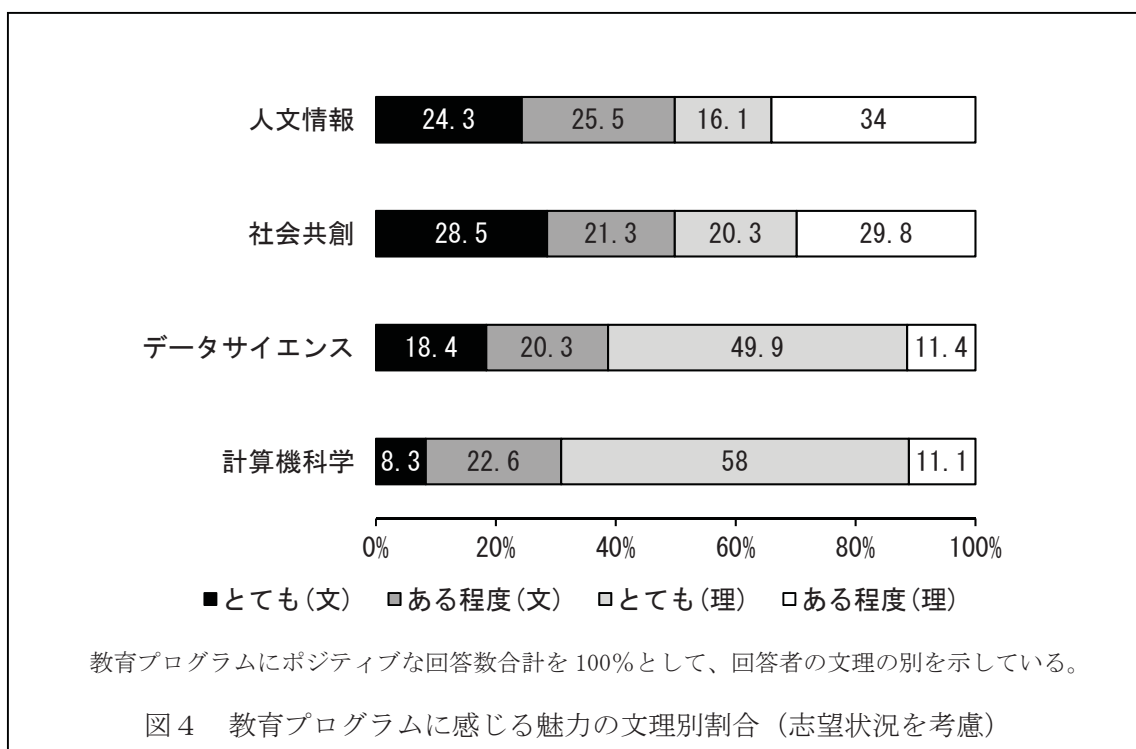


図4 教育プログラムを感じる魅力の文理別割合 (志望状況を考慮)

表3に想定定員と実質受験志願者中でのポジティブ回答者数とを比較する。県内の限定された調査対象高校のみで、各プログラム、文系・理系別で、想定定員に対し2倍以上の十分な倍率が確保され、学部としても2.72倍となることがわかる。

調査対象が限定されていたことの補正を試みた。まず、新設学部と類似した受験層の現学科(社会情報学部社会情報学科および理工学部電子情報理工学科)への、平成31年度入試の総志願者は775名(各431,344名)であり、そのうち調査対象高校からの志願者は243名(各134,109名)で31.4%となる。さらに、今回調査は調査対象高校の生徒の56.4%のみを調査している。従って、表3の志願倍率は受験層の56.4%×31.4%=17.7%から求めた値となる。つまり表3の受験倍率を5.65倍(=1/0.177)したものが、概ねの総志願倍率と見積れる。よって新設学部は十分な受験生が確保できると考えられる。

表3 教育プログラムごとのポジティブ回答評価数

	教育プログラム	想定定員数			ポジティブ回答プログラムごと		ポジティブ回答募集単位集計		推定志願倍率(A)/(B)
		(人)	(%)	(人)(A)	評価数	%	評価数(B)	%	
文系	人文情報	42	25%	85	121.5	26.24%	241	50.90%	2.67
	社会共創	43	25%		119.5	25.80%			
理系	データ科学	42	25%	85	118.2	25.52%	222	49.10%	2.46
	計算機科学	43	25%		103.8	22.42%			
学部計		170			463.0	100%	882	100%	2.72

群馬大学情報学部（設置構想中）の新しい教育プログラムに関するアンケート

群馬大学では、2021年4月より情報学部を設置することを構想しています。今までの社会情報学部と理工学部電子情報理工学科を合体した文理横断の学部です。アンケートでは、高校生のみなさんに履修状況や、進路選択の考え方、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、群馬大学情報学部（設置構想中）をより充実したものにするために参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料として活用し、個人を特定することは一切ありません。ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※別紙資料も内容は設置構想中であり、今後変更となる可能性があります。

1/4 ページ

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは群馬大学 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム



群馬大学情報学部（設置構想中）の新しい教育プログラムに関するアンケート

*必須

最初にあなた自身についてお聞きます。

性別（1つだけ）*

- 男性
- 女性
- 回答しない

在籍している高校名*

記載例：○○高校

回答を入力

所属クラス（1つだけ）*

- 文系クラス（文系コース）
- 理系クラス（理系コース）
- コース選択はない
- その他



数IIIの履修予定（1つだけ）*

- 履修する予定
- 履修しない予定
- 未定

2/4 ページ

戻る

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは群馬大学 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム



群馬大学情報学部（設置構想中）の新しい教育プログラムに関するアンケート

*必須

高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きます。

あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。（いくつでも）*

- 国立大学に進学
- 公立大学に進学
- 私立大学に進学
- 短期大学に進学
- 専門学校・専修学校に進学
- 就職
- その他



あなたは、どのような学問に興味がありますか。以下の項目から、興味のある学問系統すべてをお選びください。（いくつでも）*

- 情報学
- 社会学
- 経済・経営・商学
- 理学
- 工学
- 総合科学
- 文学（心理学，考古学，地理学，歴史学，哲学などを含む）
- 語学（言語学などを含む）
- 法学（政治学などを含む）
- 国際関係学
- 教員養成・教育学
- 生活科学（食物・栄養学，被服学，児童学などを含む）
- 芸術学（美術・デザイン，音楽などを含む）
- 看護・保健学
- 医・歯・薬学
- 農・水産学
- その他
- まだ決めていない

戻る

次へ

3/4 ページ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは群馬大学 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム



群馬大学情報学部（設置構想中）の新しい教育プログラムに関するアンケート

*必須

群馬大学情報学部（設置構想中）についてお聞きます。

群馬大学では、現在高校2年生のみならずみなさんが大学生となる2021年4月に、新しく情報学部を設置することを構想しています。
なお、情報学部（設置構想中）では、4つのプログラムを設置します。それらは中核分野の専門性とあわせて周辺分野の基礎力も養い、先端の情報科学を駆使した人間中心の社会を担う人材を育成します。

※ここからは、アンケート依頼文の裏面を見ながらお答えください。

【人文情報プログラム】について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（1つだけ）*

【人文情報プログラム】では、人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力を修得し、課題解決のための実践的理念を提供する能力を養成します。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

【社会共創プログラム】について、プログラムについて、あなたはどの程度魅力を感じますか。（1つだけ）*

【社会共創プログラム】では、高度情報化によるシステム（制度）の変化について、社会科学的知見を活用して課題を発見し、社会的課題の解決及び社会目標のためのシステム（制度）の構築や方策を提案できる能力を養成します。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない



【データサイエンスプログラム】について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（1つだけ）*

【データサイエンスプログラム】では、社会全体から集められるビッグデータ・事実・データを、情報システムを利用して収集する方法を設計し、集まったデータから、目的とする価値に適合した解決策を導く能力を養成します。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

【計算機科学プログラム】について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（1つだけ）*

【計算機科学プログラム】では、計算機や情報ネットワークをその数理的原理から理解することで、進歩の速い情報技術をフォローアップできる能力をもち、人工知能や各種情報システムを研究開発できる能力を養成します。

- とても魅力を感じる
- ある程度魅力を感じる
- あまり魅力を感じない
- まったく魅力を感じない

あなたは、群馬大学情報学部（設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。（1つだけ）*

- 受験したいと思う
- 受験したくないと思う

あなたは群馬大学情報学部（設置構想中）を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。（1つだけ）*

- 入学したいと思う
- 入学したくないと思う

4/4 ページ

戻る

送信

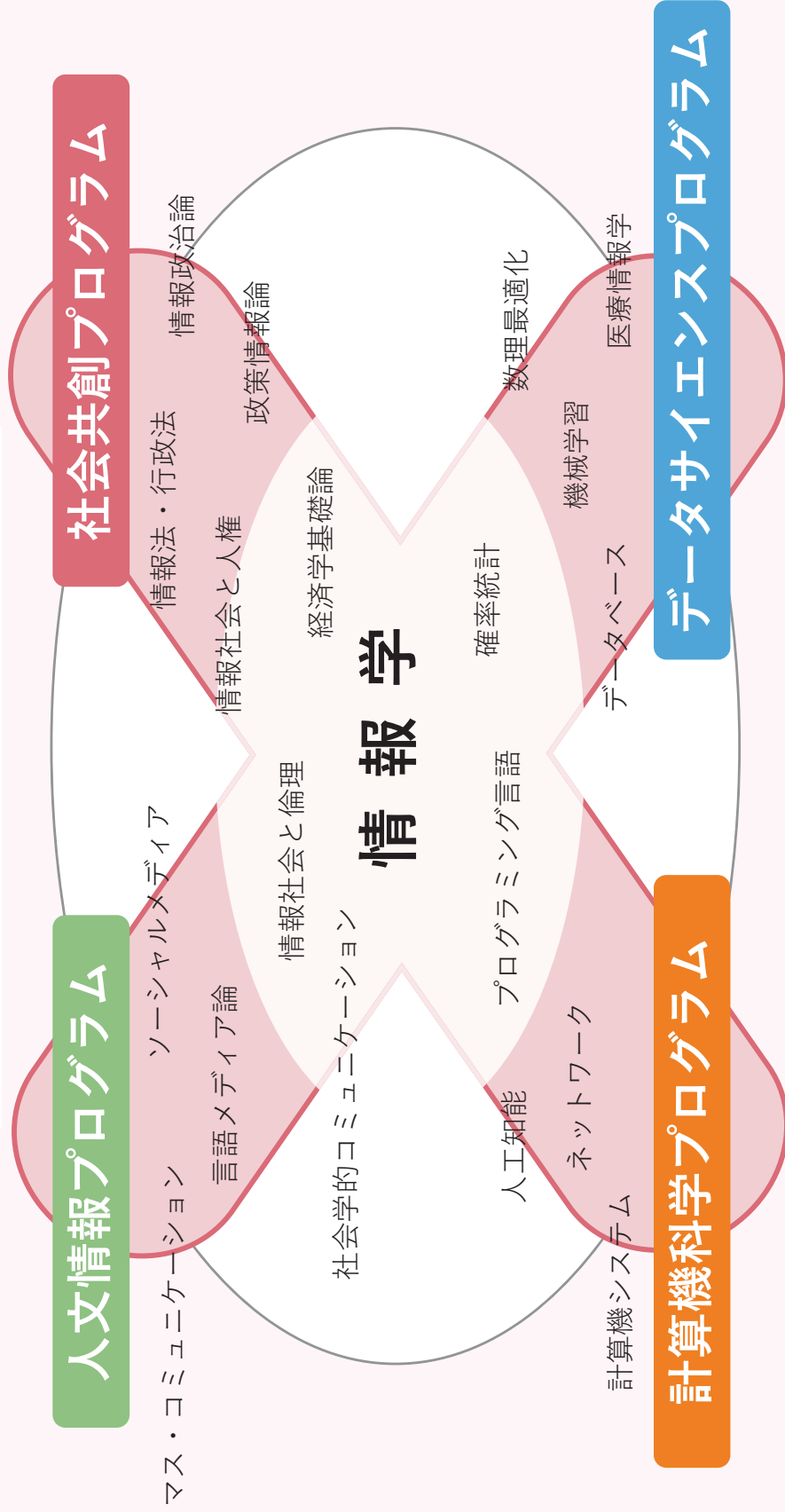
Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このフォームは群馬大学 内部で作成されました。不正行為の報告

Google フォーム



融合型PBL・ゼミ（演習）・卒業研究により
実践的に活躍できる能力を涵養



選択したプログラムにおいて基軸となる専門能力を養い、他プログラム科目の履修を通じて文理融合による俯瞰力を育成

2年次に希望するプログラムを選択

学部基盤教育

群馬大学オープンキャンパス（2019年）参加等状況

興味のある学部 ※複数希望可

全学オープンキャンパス (2019年8月16日)	高校1年生	高校2年生	高校3年生
社会情報学部	290	369	138
理工学部	372	425	136

参加状況

学部別オープンキャンパス	生徒数
社会情報学部 (2019年7月15日)	353
理工学部	1,345
(2019年7月20日)	298
(2019年7月21日)	408
(2019年9月8日)	639

2019年度 大学説明会・進学相談会等(2020年2月29日分まで)

No.	実施日	所在地	学校名・会場名	参加学部等						対象学年
				教育	社情	医	保健	理工	受入・総務	
1	4月10日	群馬県	高崎健康福祉大学高崎高等学校						○	3年生
2	4月11日	群馬県	明和県央高等学校						○	3年生、保護者
3	4月12日	群馬県	高崎商科大学附属高等学校						○	3年生
4	4月23日	群馬県	ピエント高崎						○	3年生、2年生、1年生、保護者
5	4月25日	群馬県	ヤマダグリーンドーム前橋					○	○	3年生、2年生、1年生
6	4月25日	群馬県	吉井高等学校					○		3年生
7	4月25日	栃木県	足利工業高等学校					○		3年生、2年生、1年生
8	4月26日	群馬県	桐生市市民文化会館					○		3年生、2年生、1年生、保護者
9	5月10日	埼玉県	伊奈学園総合高等学校					○		3年生、2年生、1年生
10	5月15日	栃木県	宇都宮工業高等学校					○		3年生
11	5月17日	群馬県	新島短大		○					2年生、1年生
12	5月22日	埼玉県	本庄第一高等学校						○	
13	5月25日	群馬県	ピエント高崎					○	○	
14	5月27日	埼玉県	正智深谷高等学校						○	3年生、保護者
15	5月28日	栃木県	佐野高等学校					○		3年生、2年生、1年生
16	6月4日	群馬県	桐生工業高等学校					○		教員、3年生、2年生、1年生、保護者
17	6月5日	群馬県	ぐんま国際アカデミー 高等部						○	
18	6月8日	東京都	夢ナビ 東京						○	
19	6月12日	静岡県	静岡北高等学校					○		3年生、2年生、保護者
20	6月13日	茨城県	藤代高等学校					○		3年生
21	6月13日	栃木県	足利高等学校	○	○			○	○	
22	6月13日	群馬県	渋川女子高等学校	○	○		○		○	教員、3年生、保護者
23	6月17日	群馬県	桐生市市民文化会館					○		3年生、保護者
24	6月19日	埼玉県	本庄高等学校					○		1年生
25	6月19日	群馬県	館林女子高等学校						○	3年生、2年生
26	6月20日	栃木県	白鷲大学足利高等学校						○	
27	7月2日	東京都	北関東+新潟国立4大合同説明会(東京 市ヶ谷)						○	教員
28	7月4日	群馬県	東京農業大学第二高等学校	○	○	○	○	○		3年生、2年生
29	7月5日	栃木県	國學院大栃木高等学校	○	○		○	○		2年生
30	7月9日	群馬県	太田女子高等学校	○	○		○	○		3年生
31	7月10日	群馬県	ピエント高崎					○		
32	7月11日	群馬県	前橋南高等学校	○	○		○	○		3年生
33	7月11日	群馬県	桐生南高等学校						○	
34	7月11日	群馬県	渋川女子高等学校						○	
35	7月12日	群馬県	館林高等学校						○	
36	7月13日	愛知県	東邦高等学校					○		教員、3年生、2年生、1年生、保護者
37	7月17日	群馬県	高崎東高等学校						○	
38	7月20日	愛知県	夢ナビ 名古屋						○	
39	7月22日	栃木県	石橋高等学校						○	2年生
40	7月24日	新潟県	長岡大手高等学校						○	
41	7月24日	大阪府	夢ナビ 大阪						○	
42	8月3日	栃木県	小山工業高等専門学校					○		
43	8月20日	東京都	昭和高等学校					○		3年生、2年生、1年生、保護者
44	9月5日	群馬県	勢多農林高校					○		
45	9月10日	栃木県	宇都宮中央女子高等学校					○		教員、1年生

2019年度 出張模擬授業等(2020年2月29日分まで)

No.	実施日	実施内容	所在地	学校名	参加学部					対象学年
					教育	社情	医	保健	理工	
1	5月7日	出張模擬授業	群馬県	新島学園高等学校				○		3年生、2年生、1年生
2	5月15日	出張模擬授業	群馬県	新島学園高等学校				○		3年生、2年生、1年生、保護者
3	5月25日	系統別説明会	埼玉県	熊谷女子高等学校					○	1年生
4	6月5日	系統別説明会	宮城県	石巻工業高等学校					○	3年生、保護者
5	6月6日	出張模擬授業	群馬県	館林高等学校	○				○	2年生
6	6月6日	系統別説明会	群馬県	高崎女子高等学校					○	
7	6月7日	出張模擬授業	山梨県	甲府南高等学校					○	3年生
8	6月11日	系統別説明会	群馬県	高崎商業高等学校					○	2年生
9	6月12日	出張模擬授業	群馬県	東京農業大学第二高等学校	○					3年生、2年生、1年生
10	6月13日	系統別説明会	埼玉県	本庄高等学校					○	2年生
11	6月13日	系統別説明会	新潟県	長岡工業高等学校					○	3年生
12	6月13日	出張模擬授業	栃木県	白鷗大学足利高等学校					○	1年生
13	6月14日	出張模擬授業	栃木県	佐野東高等学校	○				○	3年生、2年生、1年生、保護者
14	6月19日	系統別説明会	栃木県	佐野東高等学校					○	2年生
15	6月25日	系統別説明会	群馬県	沼田高等学校	○				○	3年生、2年生
16	6月28日	系統別説明会	群馬県	前橋東高等学校	○	○		○	○	3年生、2年生、1年生、保護者
17	7月9日	出張模擬授業	群馬県	市立太田高等学校	○		○		○	2年生
18	7月10日	出張模擬授業	群馬県	ビエント高崎	○				○	1年生
19	7月10日	系統別説明会	栃木県	小山高等学校				○		2年生
20	7月10日	系統別説明会	群馬県	伊勢崎清明高等学校				○		2年生
21	7月10日	出張模擬授業	群馬県	ビエント高崎					○	2年生
22	7月11日	出張模擬授業	栃木県	栃木女子高等学校	○					2年生
23	8月22日	出張模擬授業	群馬県	常盤高等学校					○	3年生、2年生、1年生
24	8月29日	出張模擬授業	群馬県	太田女子高等学校	○	○			○	1年生
25	9月11日	出張模擬授業	秋田県	湯沢高等学校					○	3年生、2年生、1年生

2019年度 高校訪問(2020年2月29日分まで)

No.	実施日	所在地	訪問先	参加学部等					
				教育	社情	医	保健	理工	総務
1	5月27日	静岡県	掛川工業高等学校					○	
2	5月27日	静岡県	掛川東高等学校					○	
3	5月27日	静岡県	島田高等学校					○	
4	5月27日	静岡県	島田工業高等学校					○	
5	7月5日	静岡県	静岡学園高等学校					○	
6	7月5日	静岡県	静岡高等学校					○	
7	7月5日	静岡県	駿河総合高等学校					○	
8	7月12日	東京都	北園高等学校					○	
9	7月12日	東京都	京華高等学校					○	
10	7月12日	東京都	淑徳高等学校					○	

2019年度 大学見学(2020年2月29日分まで)

No.	日付	所在地	学校名	受入学部等						対象学年
				教育	社情	医	保健	理工	受入・総務	
1	4月18日	長野県	野沢南高等学校					○		2年生
2	4月27日	群馬県	高崎高等学校						○	
3	5月16日	群馬県	高崎女子高等学校						○	
4	5月21日	栃木県	栃木翔南高等学校	○	○			○	○	2年生
5	5月31日	群馬県	渋川青翠高等学校		○					1年生
6	5月31日	栃木県	茂木高等学校					○		2年生
7	6月11日	栃木県	小山西高等学校				○			
8	6月18日	群馬県	吉井高等学校					○		1年生
9	6月25日	茨城県	下館第一高等学校		○			○		
10	6月28日	茨城県	藤代高等学校		○			○		教員、2年生
11	7月4日	埼玉県	羽生第一高等学校		○					保護者
12	7月9日	栃木県	宇都宮南高等学校				○	○		
13	7月12日	岩手県	盛岡第四高校						○	
14	7月23日	富山県	入善高等学校	○	○			○		教員、2年生
15	7月30日	栃木県	那須拓陽高等学校	○						1年生
16	7月31日	新潟県	巻高等学校		○	○	○	○		教員、2年生
17	8月26日	埼玉県	本庄高等学校					○		1年生